

若者がつくる平和な未来

(原文)

黒田 真央 (14 歳)

東京都

晃華学園中学校高等学校

私の考える平和な世界とは、独善的な行動による国同士の争いがない世界です。今も続いているウクライナ戦争において、当初ロシアは港に最適な凍らない海を求めてウクライナにあるクリミア半島に侵攻したことで起こったとされています。ウクライナ戦争を止めるために主にヨーロッパ諸国やアメリカなどがロシアとの貿易をやめ、国力を衰えさせて、少しでもロシアの戦力を低下させようとしています。しかし、これによって物が不足し、ヨーロッパ諸国でもロシアでも市民は苦しい生活をしています。つまり国の指導者や大人たちの独善的な行動によって、戦地に赴いた兵士だけでなく、罪のない市民が苦しめられているということです。

それでは、今後、若者が協力し合って平和な未来を実現するためにはどのようにすればよいか。私は、まず敵・味方の国関係なく、お互いの思想や文化を知ることが大事だと思います。そのためにはインターネットや VR を利用し、国を超えて個人個人が交流する場が必要だと思います。たとえば、国際的なハンドメイド販売サイトを作り、各国の民芸品やハンドメイド作品を売買できるようにする。何かを作ることは子どもにもできるため、貧しい国の子どもでも何かを作り販売することで本人の収入ややりがいにも繋がり、生活の向上が期待できます。さらに、作品の人気や信用によってポイント評価をつけ、可視化することで、より安心して売買ができるようにします。作品の作り手と買い手が交流できるようにしていけば、お互いの国や地域の文化の理解にも繋がります。また将来的には VR 上で店舗を持ったり、アバターで実際に接客したりすることが可能だと思います。戦争を未然に防ぐには、国を超えて個人個人が交流し合い、文化や思想の相互理解によって誤解をなくすことが大切だと思います。

他にも、若者のコミュニケーションの場として、その時に起こっている出来事や政治の話の世界各国の子どもや若者と共有し、自由に話し合える場を作れば、さらに他国への理解が進むと思います。本来ならば、現代社会の問題解決のために国連があります。今の国連は元々、第二次世界大戦の後、平和を実現するために設立され、集団安全保障の体制が作られました。国連の安全保障理事会で正しい決議がなされ、戦争を抑える役割が期待されていますが、現状は常任理事国の拒否権の発動により、戦争を止められないもどかしい状況が続いています。国の指導者は自国と既得権益を守ろうとし過ぎて、他国のことを考える余裕がありません。しかし、若者は、国の指導者とは違って既得権益がないため、冷静で自由な話し合いがしやすいと思います。このことを活かし、「若者の、若者による、若者のため

の国際会議」を開きます。「若者による国際会議」では、常任理事国を設けず、拒否権のない公平な決議を行い、さらに、若者の声を世界に同時発信できるようにすれば、大人が若者の意見に耳を傾け、大人たちの暴走を止められるかもしれません。国同士が横に監視し合う国連を、さらに世代間で縦に監視できれば、世界が少しずついい方向に進んでいくのではないかと思います。

平和な未来を実現するには、国を超えて個人個人が交流する細やかな活動から始まり、その活動を続けられる仕組みを作りながら、未来へ繋げていくことが大切だと思います。だからこそ、小さい時から他国の人と関わり、国際的な感覚を身につけ、互いの文化や思想についての理解を深めておく必要があると思います。そして多くの若者が選挙権を持つ歳になり、国際感覚を持った若者が投票によって国を動かし、さらに自ら国の指導者として国際社会に進出する機会を得られた時こそ、若い時に培った国際感覚、相手の国への理解、公平などを最大限発揮することが大切だと思います。